

特別展「荒俣宏の大大マンガラクタ館」関連図書展示

「荒俣宏の描いた帝都・東京」

日比谷図書文化館では現在、特別展「荒俣宏の大大マンガラクタ館」を開催中です。その関連図書展示「荒俣宏の描いた帝都・東京」を三部構成で行っています。特別展をもっと楽しむために、もうひとつのアラマタ展をご堪能ください。

展示構成

【第一部】『帝都物語』を蔵書から読み解く

荒俣宏の代表作「帝都物語」の世界観を日比谷図書文化館の蔵書から読み解きます。登場人物紹介のほか、作中で描かれている明治から昭和にかけて移り変わる帝都・東京に注目し、コロナ禍に都市はどうあるべきか、都市のありかたを考えます。

【第二部】日比谷 de 二宮金次郎@帝都物語

『帝都物語』から昭和2年(1927)の日比谷が舞台となった「銅像を運ぶ人」の章に焦点を当て、銅像、すなわち、二宮金次郎像に注目します。昭和2年の日比谷はどうだったのか？荒俣氏は路上博物学や図像学的に関心を寄せた金次郎像を『帝都物語』になぜ登場させたのか？さらに、なぜ、金次郎像をみんな知っているのか？その謎に迫ります。

展示では、薪を背負う金次郎像の初出とされる幸田露伴著『二宮尊徳翁』(1892・当館所蔵)をはじめ、この企画のために、荒俣氏が日比谷 de 二宮金次郎に！その様子や背負っていただいた日比谷公園産のタキギと《背負子》も並びます。また全国の小学校に見られた金次郎像の嚆矢は明治43年(1910)年に岡崎雪聲が作り、明治天皇に買い上げられたものですが、その岡崎が日比谷公園の鶴の噴水の作者であるといったつながりも紹介しています。

【第三部】荒俣宏のアタマの中

作家、博物学、神秘学、小説、翻訳など多岐にわたり活動する荒俣宏をつくった本、荒俣宏がつくった本を紹介しています。また、特別展の「稀書自慢」コーナーで展示されている荒俣氏が最初に購入したファースト・レアブックの入手のみつも紹介。愛書家の姿もぜひご覧ください。

開催概要

- ・会期：開催中 ～12月25日(金)
- ・休館日：11月16日(月)、12月21日(月)
- ・会場：3階エレベーターホール ・入場無料

[https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20201016-3\\_32/](https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20201016-3_32/)



『二宮尊徳翁』幸田露伴、博文館、1892



背負子を背負い金次郎の姿になる荒俣宏氏



〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、高野 takano-yuta@shopro.co.jp  
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3340 / FAX：03-3502-3341  
ホームページ： <https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>